



じゃがいものうち通信 NO. 44 2005.6.2

～障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel./Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:http://www.minc.ne.jp/npo-jaga 代表 松田 正

大きな変化の中で

昨年の異常な暑さのせいか、相次いだ台風のせいか、我が家の梅はほとんど咲かず、タケノコも申し訳程度、それも猿に先を越されほんの少ししか口に出来なかった。温度の変化は少しずつなので、身体で感じ取るとはほとんど出来ないけれど、自然の変化を見ているとこれも温暖化なのかと心配になってきます。福祉の制度も今大きな変化の中にあります。支援費制度が始まったと思えば、利用者の急増であわてたかのように『障害者自立支援法』が出されました。これまで足りなかったサービスが使えるようになったのだから増えて当然という気はしますが、利用者の増加が見込みを大きく超えてしまい、仕切直しをしたいと言うのが真相のようです。自立支援法とはいいながら中身を見てみると『自立阻止法』じゃないかと思う部分も多く含まれています。この機会に障害者の自立とは？という問いに、はっきりとした自分なりの意見を持つておく必要があると思います。昨年突然出されたグランドデザイン案も同じ流れの中にあり、先駆者たちが命をかけて勝ち取ってきた福祉制度を、不均衡の是正と言うもっともらしい理由で、ご破算にするための制度改革にしか見えない。こんな時だからなおさら、じゃがいものうちの理念『どんな障害があっても普通の暮らしが出来る社会に向けての活動』ということを再確認しておく必要があると思います。



最後に明るいニュースを一つ。先日、尾之間のむらづくり委員会でじゃがいものうちの代表として、保健福祉部に入りました。どんな活動が出来るか分かりませんが、地域に認められた証としてうれしいことです。これを機に地域と一体となった活動にしていければと思っています。(松田)

《2005年度総会報告》

さる5月15日、尾之間管理センターにおいて、53名(内、委任状29名)の参加を得て第3回定例総会を行いました。意見を出しやすいようにと、ゴザで自由に座っての会にしたため活発な意見交換が出来、今までにない総会になりました。今年度の重点目標として、当事者の住むところとしてのグループホームと日中活動の場としての作業所について、学習すると同時に、可能なところから試行していこうと計画を立てました。またそれに必要な予算を計上し認められました。この1年理事1名欠員のままですが、会員の一人一人に活動内容が見えるようにしていきたいと思っていますので、今後ともご理解と参加協力をよろしく願いいたします。なお、総会資料・議事録についてはじゃがいものうちに置いてありますのでご覧ください。また会員の方で必要な方は申し出てください。(松田)



午後のお楽しみ会

理事会の後に昼食会とお楽しみ会が開かれました

鈴木 : お昼ご飯はごちそうだったね

こうじ君 : うん、おいしかった -、味も丁度良かったし

のぶ君 : 特に切り干し大根がおいしかった

鈴木 : やっぱり私はタンカンクリ - ムのシュ - クリ - ムかな

のぶ君 : 僕はお楽しみ会で、ものまねをやったよ、それに「与作」とか「あゝ上野駅」を歌ったよ

こうじ君 : 僕は大阪にまつわる歌ばかり歌ったんだ。大原さんや四宮さんの踊りと歌も良かったしねえ、またあんな機会があればいいのになあ

のぶ君 : 僕は今度みんなが見たこともないものまねに挑戦したいんだ！

こうじ君 : 僕も今度のはのぶ君みたいなものまねに挑戦してみようかなあ。それに僕とのぶ君で漫才をするのもいいよね

鈴木 : 次回のお楽しみ会はいつになるのかなあ、楽しみだね！



(鹿島、高見澤、鈴木ユウコ)

【しゃくなげ未来館との交流会】

4月28日、しゃくなげ未来館にて手をつなぐ育成会、じゃがいものうち、しゃくなげ未来館との第2回タンカンジュースラベルはり作業&交流会がありました。(合計23名) しゃくなげ未来館は、屋久島地区精神者家族会(石楠会)が運営する拠点です。

木工や手芸、料理など、自分達で決めた活動をしながらいまの悩みを相談することもあるし何より今日また会えた事を喜び会える様なゆったりした時を大切にしています。しゃくなげ未来館にとって、こうした他団体の皆さんを迎えての共同作業は初体験でした。今回初めて顔合わせする人も多い中で、みんな戸惑ったり緊張しないだろうか、それに部屋は大人数で作業するには狭いし、肝心な作業ができるかな。などと、半分ドキドキしながらも、みんなと一緒に働けるその日を楽しみに待ちました。当日はからっと晴れ上がる暑い日射しの中、皆さんが元気に到着され、まずは思い思いに座って頂いてほっと一安心でした。作業は既に2回目なので、要領をきちんと覚えている

人は落ち着いて初めての人に教えたり、分からない人は教わりながら三つ位のグループに分かれて行きました。ラベルはり手は手が少しでも揺れるとズレてしまったり、シワが寄ったりするのでなかなか難しいのです。ワイワイ和やかなムードでも、手を動かすみんなの姿は真剣そのもので料理班の人が作るカレーのいい匂いがしてくると、ますます作業もすすみ、丁度おいしく出来た頃には一日の作業が無事に終了しました。後日、未来館の人達に感想を聞いたところ、またしたいね。楽しかった、など充実感のこもった声が返ってきました。前に誰かが、働きたいと話していたことを急に思い出しました。例えわずかづつでも、各自のペースで通える働く場ができればいいと思います。色々な形を焦らずに皆さんと共に考えていきたいです。



—追伸—

このような機会をもうけて下さり、未来館一同心より感謝しております。まずは百円玉を握って昼御飯を食べにいらっしやいませんか。ご連絡お待ちしております。保健所事務局(46-2024)まで

活動日 毎月第2、3、4木曜日

昼食材料代 100円 (鈴木ゆかり)



〔もっちょむ市出店〕

5 / 5 子供の日、尾之間で開催されました「もっちょむ市」に参加しました。お品は、じゃがころ綿菓子、ピーズ小物おじぞうさん、リサイクル服でした。今回は、じゃがいものうちの宣伝のため、これらをふるまいながら、寄付金をつるものでした。それでも、長年倍ったじゃがころ塊で手を抜くことなく作りました。皮をむいて、串にさして・・・さあ出来上がりました。それにしてもじゃがころっていつ食べてもおいしいですね。みなさんの愛がたくさんたくさん入っているせいかもしれません。すぐに品切れです。旗を見て品切れでも「じゃがころ下さい」と来店して下さる少年もいて、じゃがいものうちの認知度を実感しました。私は綿菓子に初挑戦。綿菓子が大きくなっていくと、子供達の笑顔も大きくなってゆき、それをみていて楽しかったです。いつもいつも楽しませていただいてありがとうございます。(沼田澄江)



子持ちギャルの《ひとこま見聞録》

本年度から「じゃが通」に仲間入りをさせて頂いたユウコが送るコ - ナ - 、日頃のじゃがいものうちのひとこまの見聞録。

じゃがいものうちの拠点には喫茶の看板マダムやお客様、水生輪君やないき君、明るく元気なヘルパ - さんでおしゃべりの花が咲いています。そんなひとときのひとこまより～「私、パトカ - を追い抜かして止められた事あるのよね - 」と何気なく言うSさんの言葉に唾然とする私たち。その後もSさんの言葉は続く、「だって - のろのろ走ってるんだもん、ちょっと考えたんだけどやっぱり抜かしたの、そしたら止められたの」と、、「考えるとかそういう問題じゃないでしょ - 、信じられな - い」と水生輪君と大笑いする私たち。他人の事を笑っているスズキだが、先日私も車の方向を変えようとバックしたら低いブロックに左の下

脇を乗り越えてしまい前にも後ろにも進めなくなってしまった。同乗していたりえちゃんが「誰か - すいませんけどよ - 助けて下さ - い、裕子さんが車ぶつけちゃったんです - 」と大きな声で通りすがり人や車に助けを求め始めた。恥ずかしくてあたふたする私の横で「すいませんね - すいませんね - 」と声をかけるりえちゃん。そのときお世話になった方々有り難うございました。そしてりえちゃん、ありがとね！（この事は私のダンナはまだ知らない）



追伸 3月に拠点で行ったレ・フレ - ルのライブ、ピアニストの迫力ある生演奏はなかなか聴くことが出来ないであろうと、スズキが突然企画してしまって皆さんに大変ご迷惑をおかけしてしまいました。ごめんなさい。りえちゃんの結婚式ありダンスありと、とても楽しく激しいライブでした。あまりの激しさに水生輪君を息が止まってしまいそうなほど緊張させてしまいました。これまた反省です。音量や音質の問題、会場の問題、音楽の好みの問題、プログラムの組み立て方など考えなければならないことがたくさんあった様です。次回はみんなが楽しめる企画であるよう心がけたいと思います。

レ・フレ - ルがメ - ルを送って下さいました～じゃがいものうちに僕たちレ・フレ - ルを呼んでくれて有り難う！アットホ - ムで良い雰囲気の中で僕たちも楽しませてもらいました。機会がありましたら是非またやらせて下さい。じゃがいものうちのみなさん、屋久島のみなさん、有り難うございました。 by レ・フレ - ル



地域福祉フォーラム鹿児島」研修報告

南日本新聞に隔週で載っている『いろ葉のころ』の記事が好きで、その中迎さんの話が屋久島で聞けると聞き、出かけたのが4月17日。そこで『4月30日に地域福祉フォーラム鹿児島』があるという案内チラシがあり、非常に興味はあるものの「う～ん」と迷っていたら、「ぼん」と背中を押され出かけていきました。

内容は、デイケアハウス『にぎやか荘』ができた経緯や想い、ケアプロデュース『RX組』を立ち上げた経緯など、そして現在鹿児島で活動している宅老所『いろ葉』小規模多機能ハウス『よいやんせ』とのパネルディスカッションでした。その中の『にぎやか』の話をしたと思います。

『にぎやか』はお年寄りから赤ちゃんまで、障害の有無にかかわらず受け入れています（ご近所の犬も預かったとか）。ここは ありのままを受け入れ いい加減（適当）がいいので決まりは作らないで 死ぬまで面倒をみること — 例えば介護の中で「歩けない」から「歩ける」ようにリハビリをする。こうならなければ「いけない人」なのか。まだこれ以上「頑張る」事が必要なのか。これは「老い」の否定であり「障害」の否定でもある。時には「諦める」強さも必要だ。できないことは私たちがサポートするから。また「介護」とは、問題行動を「改善」や「自立」させることでなく、そのことにつき合い、寄り添う事が「介護」の仕事ではないか。何とかしようともがく必要はなく、自然の流れとして受け入れることが基本ではないか。無駄な規則は作らない。決まりを作ると決まり以外の事に対応できなくなる。基本は「利用者第一」でそのために必要なことならやってもいい。死ぬまでこの人を幸せに大事に支えて生きてゆきたい — と考えています。さらに、今の住宅地には「地域」がなく、ただ家と家が連なっているだけで、壁や塀があり「連携」はない。「互いに迷惑を掛け合わない」がルールで「助け合う」事が無い。今は「ノーマル」な人間が住む「ノーマルでない世界」があり、『にぎやか』は単に介護事業をするためだけにあるのではなく、地域のつながりを再生していく役割も担っているんだ。

この研修を受けた感想は、「すごいな」という印象でした。様々な事を体験してきた中で『こんな介護がやりたい』と思い『理想』と言うよりは『信念』に近く、それが『自分らしい生き方』と言っているような気がしました。個人差はそれぞれあるものの、一様に『制度があったからそれをやるのではなく、やっ~~ていて~~必要が出てきたのでそれをやる』と言うことでした。こうしていわゆる『富山型』とか『小規模・多機能』といわれる制度的なものが後からついてきたようです。もちろん制度（介護保険等）が整備される前は、その上にのることのできない『自主事業』で経営もかなり厳しかったようです（今でも厳しいことには変わりはないようだが）。もし制度にのっとったとしても『大きな施設と同じになるにはなるのではないか』『制約が増えて身動きがとれなくなるのでは』という心配もあったようだ（例えばデイとグループホームをするなら、壁で仕切って玄関も2つ必要とか）。制度上にのっとった大きな施設は元々『多機能』であった（デイがありショートがあり入所がある）。そんな『大きな施設の小さい施設版』にはなりたくない、『利用者第一でありたい』と言う思いがいっぱい詰まっていました。（研修内容は報告書としてじゃがいものおうちに置いてあります。）

注釈 『富山型』：「高齢、身体障害者、知的障害者及び障害児が、区別なく一緒に身近な地域で福祉サービスを受けられるよう指定通所介護事業所等で知的障害者や障害児のデイサービスを実施できる」という富山型デイサービス推進特区の方式（研修プリントより）

『小規模・多機能』：「在宅にいても365日24時間切れ目のないサービス（泊まり、通い、住む等）を提供できる仕組みを小規模で行う」（『あなたが始める小規模・多機能ホーム』 苛原実著、雲母書房より）

楽しく読めるお薦めの2冊

『親子じゃないけど家族です』 阪井由佳子 著

『力愛不二』 青山幸広 著

が屋久町図書室にあります。お二人の今までの歴史が楽しい本になっています（誰でも読みやすいよ）。興味のある方はリクエストしてみてください。（6月13日までは貸し出し中です。早く読んで返却しますネ！）

（羽田順子）

尾之間区の村づくり委員会に参画することになりました

屋久島の最南端にある集落尾之間、気候温暖で温泉も役場もある、なによりも後ろにそびえ立つモッコウ岳が素晴らしい。じゃがいものうちもこの尾之間にあります。かねてより地域の中に密着した活動を目指していますが、ようやくその機会に恵まれました。今年は積極的に自ら入って行こうと、尾之間区村づくり委員会、保険福祉部の中に参加することになりました。地域の老人や障害者を地域で支えて行く取り組みに一役買うことになりました、独居老人に少しでも人との関わりの中に出てもらったり、ボランティアの養成、福祉ネットワーク作り等の取り組みに地域と共に考えて行こうと思っています。(楯)

じゃが千恵予定です

六月のじゃが千恵 日 時 : 6月12日(日) AM10:00~12:00
場所&連絡先 : じゃがいものうち (0997-47-3588)

粘土遊びをしよう!

初めは親ゆび大の粘土(陶土)を手の中でのぎり遊びをしながら、思いついた何かの形を作ってみましょう。

今回は粘土の感触を楽しむことを一番大切にします。着衣をよごさないようエプロンとタオルを御持参下さい。(技術協力は高平がまの小川さん) 手伝方は小笠原、

七月のじゃが千恵 日 時 : 7月3日(日) AM10:00~12:00
場所&連絡先 : じゃがいものうち (0997-47-3588)

官足棒を作ろう!(足もみ棒)

雨があけますと夏本番です。人々の行動に重要な役目をする足(脚)、不自由になって初めてその大切に付きます。健康は足もとからあらためて、さすり、ながめ、考えてみましょう。当日は天然木で作る足棒をペーパー磨きをしていただきます。自分の足でたしかめてから誰かの足をやさしくもんであげましょう。

(反射区解説は当会々員の谷本さん) 手伝方小笠原

福祉学習会予定です

屋久島に障害者の社会参加や自立の場を作ろう

・・・を目的に正月早々、1月15日に各関係福祉団体や両町福祉課、県福祉課の皆さんの参加で第一回目の福祉学習会を行いました。その1回目のテーマは、めまぐるしく変ろうとしている法律や制度を学びつつ、作業所かデイサービスか小規模通所授産施設かと、屋久島ならではの方法を模索しようと様々な意見交換がされました。1回目のまとめとして障害の種別の垣根を取り外してより多くの人が一つになり目標に向け取り組む必要がある。という事でした。そしてこの度、第2回目の福祉学習会を企画致しました。今回のテーマは、作業所やデイサービス又は、通所授産が働く場、活動する場であるならば、生活の場(家となる場)を考えよう!です。活動の場と生活の場が出来てようやく自立や社会参加が出来るのです。ちょっと前だと障害者は施設で暮らすのが屋久島では当たり前の事でした。しかし今や施設を出て町で暮らそう、と施設は崩壊して行く時代になって来ました。施設以外で家となる場は今の制度では手短なところとしてグループホームがあります。一軒家を借りるなり、町営住宅なりに複数の障害者が入居し世話人さんがめんどうを見るといことです。他にも託老所とかがあるそうだという事ですがそれら全般を含めながらグループホームの可能性を模索してゆこうと思っています。(楯)

第2回福祉学習会について

日 時 : 2005年6月11日(土) 13:30~16:00
場 所 : 安房支所2F研修室
テーマ : グループホームについて(宅老所、小規模多機能も含む)
講 師 : 県福祉課 中村俊晴氏

『障害者自立支援法』について

昨年10月出された『今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)』の流れを受けて今年2月『障害者自立支援法』が上程されました。『自立支援法』なんて言うのがすごくいいことのように聞こえますが中身が問題です。総合福祉法の性格のあることや重度障害者に目が向けられたことなど評価できる点もありますが、納得しかねるところもたくさんあります。その一番大きな問題点は介護保険と同じように『応益負担』ということです。障害者福祉は保険ではなく、社会保障だと考えています。障害があるために生活に支障を来す場合、その人個人の責任ではなく、社会でサポートし、障害のない人と対等な生活が出来るようにすべきだと思います。障害があるため自分で食事をとれない人がいるとします。その人がヘルパーを利用したなら、利益を得た訳だから費用を負担しろと言うのです。十分な所得保障があるなら理解も出来ますが、それが無い現状では家族に依存せざるを得なくなります。となると自立からは遠のくばかりです。自立とは少々乱暴に言ってしまうと、家族に頼らずに生活出来ることだと思います。障害者の『自立と社会参加』が基本理念であった今までの施策の大きな変換点に来ているようです。(松田)

感謝録

寄付

柴堯子、小笠原勝弘、高田和子、吉田恵美子、山口康文、吉田克雄、
松浦輝雄、屋久島ふるさと市場

物品寄付

渡辺まみよ、日高由美子、今東香織、羽田順子、加藤章、柴田薫、岩川美恵子、後藤田百合美、
鈴木さん(安房)、羽生みどり、峰平耕典、星野京・光子、大久保芙美子、清水マリ子
日高二三男、戸床 頭、日高昭義

もらいたし

じゃがいものおうち拠点の営業許可を喫茶店営業から飲食店営業に切り替えます。というのも昼食は出来ますか?というお客がこの頃増えてきたという直接的な理由と、作業所としての飲食店、豆腐料理やうどん蕎麦を提供できるような、そんな時のことを夢みての理由で試してみようと思いました。

といっても今の拠点喫茶はきわめて狭い厨房です、レトルトの簡単なメニューからやってみようと思っています。そこで皆さん電子レンジは余っていませんか?もし使われないのがありましたら御一報下さい

【通信後記】

総会に出席していない方々に総会資料と通信を合せて送ろうと、その為にちょっと急いだ44号でした、おまけに我が通信部の校正係長は所用で不在。少い人数と未熟な技量、でもなんとかやるぞ!と、高度な望みは避けてこの度は、読まれる方達にとっては不足が残るかも知れませんが、人手不足通信部の精一杯の作品です、なにとぞ思いやりの心でよろしくおい致します。しかしこの44号の内容は、そうとう **コ・イ・ク・チ** ですよ。

ちょっと残念なお知らせですが、長くじゃがいものおうちにお花や苗木を提供されてきました「お花のおじさん」こと峰平耕典さんが家庭の事情で兵庫県に行かれました。時々畑の手入れに帰ってこられるそうです。帰ってきたらみんなで草取りに行こう!..かな~

今回の通信のほとんどの原稿を打ちこんだ永綱さん、ご苦労様でした。

ひとこま見聞録おもしろかったネ!うんっ!おもしろかった。

お~い、それにしても校正係長どこいったの~!

(楯)